

シナリオに対する委員からのご意見

1 4段階(現状や課題→将来への取組→見えてきた兆し→めざしたい姿)に対する意見

- (1) シナリオタイトルのすぐ下に、箇条書きで記載されている内容は、どのような位置づけか。
阪神地域の過去から現在に培われてきた強みや魅力、社会的なニーズが記載されているのでそのようなタイトルをつけたほうがよい。
- (2) 済「現状や課題」は課題を主に記載しているので、「課題」としてしまってもよいのではないか。(現状の良い点や阪神地域の特徴等はシナリオタイトルのすぐ下に記載されているため。)
- (3) シナリオの4段階の展開について、「見えてきた兆し」は他の段階と比べて名前に違和感がある。すでに取り組みの効果が表れているように感じられる。
修正案: 「取組の効果」「変化の兆し」「変化のはじまり」など
- (4) 4段階について「将来の取組」が導き出される順番に即して、「現状や課題→見えてきた兆し→めざしたい姿→将来の取組」あるいは、「現状や課題→見えてきた兆し→将来の取組→めざしたい姿」と時系列と一致させた方がよい(現在は「見えてきた兆し」(現在)と「将来の取組」(未来)の順番が逆になっている)。

2 シナリオの構成について

- (1) 「みんなの声」は、ヒアリングなどをもとに構成されていると思うが、再度、内容を精査してもよいのではないか。例えばシナリオ 16 の「めざしたい姿」の「みんなの声」では、突然「行き過ぎたコンパクトシティは、農地がなくなる可能性がある」とあるが、これだけでは意味がわかりにくい。
- (2) 「みんなの声」は、どんな人が発言しているのかがなんとなく伝わるほうがよい。「未来ミーティングでの意見」や「県民からの意見」といった表現もある。
- (3) 済「阪神」という言葉は独立してつかうと大阪と神戸（あるいは大阪と神戸を含むエリア）を指す言葉なので、違和感がある。
- (4) 文章の主語が、自治体、企業、住民などシナリオによって違うので混乱や誤解を生じる恐れがあるため、主語を明確にする必要がある。
- (5) 長い文章は短い文章に分割するなど文章の形式も全体的に統一する。
- (6) 子ども目線の記載がほぼ無いのが気になる。
実は、当市の総合戦略策定時に審議会委員から、その点について指摘を受け修正したことがある。例えば、子どもを「育てる」対象としてのみ捉えるのではなく、自ら「育つ」ものであると捉える視点も必要。
- (7) できるだけ多くのシナリオに、住民参画のストーリーを盛り込んでほしい。阪神地域の長所である充実した大学、企業、博物館、スポーツ施設等を活かす。地域連携プロジェクトを促進し、大学生や若い世代を地域づくりに巻き込むことも有効。
盛り込んでほしい内容と盛り込む可能性のあるシナリオ番号を記載し例示したので検討してほしい。

地域住民の主体的活動を促進する内容を盛り込む。

(シナリオ 1、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、18)

将来への取組 「シナリオテーマに関する住民参加型プロジェクトを実施する」

見えてきた兆し「住民主体の活動が始まる」

めざしたい姿 「自律的な住民主体の活動が複数展開するようになる」

→「それが重層的なコミュニティを形成していく」

地域の小中学生への教育普及を促進する内容を盛り込む。

(シナリオ 5、6、7、8、9、12、13、14、16、18)

将来への取組 「シナリオテーマに関する授業やイベントを小中学校で実施する」

見えてきた兆し「シナリオテーマに関して小中学生の認知度が向上する」

めざしたい姿 「(小中学生が大人になって)シナリオテーマを深く理解し、積極的に取り組む人が増える」

産学官連携のプロジェクト

(シナリオ 2、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18)

将来への取組 「シナリオテーマに関する産学官連携の研究プロジェクトを実施する」

見えてきた兆し「研究成果を活かして住民参加の社会実験を行う」

めざしたい姿 「社会実験の成果を活かしてシナリオテーマを実現する」

博物館、美術館、大学等の公開講座や体験講座、ワークショップ

(シナリオ 5、6、7、8、9、12、13、14、18)

将来への取組 「シナリオテーマに関する体験講座を博物館と連携して実施する」

見えてきた兆し「講座参加者を中心に住民主体の活動が始まる」

めざしたい姿 「自立的な住民主体の活動が複数展開している」

→「それが重層的なコミュニティを形成していく」

ボランティア育成講座

(シナリオ 4、5、6、7、8、10、11、12、13、14、15、16)

将来への取組 「シナリオテーマのボランティア育成講座を大学と連携して実施する」

見えてきた兆し「講座修了者を中心に自立的なボランティア活動が始まる」

めざしたい姿 「ボランティア組織が組織化され活発に運営されている」

→「それが重層的なコミュニティを形成していく」

アートプロジェクト

(シナリオ 5、6、7、8、12、13、14、15)

将来への取組 「シナリオテーマに関する参加型アートプロジェクトを美術館や大学との連携で実施する」

見えてきた兆し「シナリオテーマの認知度が向上する」

「参加者が主体的にアートプロジェクトを継続する」

めざしたい姿 「アートプロジェクトから新しい地域コミュニティが創出される」

→「それが重層的なコミュニティを形成していく」

2 シナリオの編成についての意見

柱立て1 自分らしいスタイルが実現できるまち(シナリオ①～④)

- (1) 柔軟な働き方や生活スタイルの実現からうまれるシナリオは3つあり、3方面から整理したものからシナリオをつくとよいのではないか。住む場所が働く場所としても豊かであること。暮らしと仕事のありかたがイメージできるシナリオが魅力的。

●「ITC化による柔軟な働き方や生活スタイルの実現」

ITC化がすすみ、テレワークなどの環境がととのい、はたらく場にとらわれない、仕事が成立することで、地域の中で過ごす時間や、自分の趣味の時間がふえるなどライフスタイルのありかたが変化し、暮らしが充実する

●副業と複業の自由化

趣味と仕事が重なるという表現になっているのが、趣味という言葉に違和感がある。自分の好きなこと得意なことが仕事になる時代=起業のチャンスが増えるということだと読んでいけるとわかるが、自分らしい仕事をする事で自分らしいスタイルが生まれ、働くことが喜びややりがいが増すことがシンプルに伝わるとよい。

●地域の中で仕事がおき循環する仕組み(コミュニティビジネス)

柔軟な働き方や生活スタイルの実現とともに、コミュニティの課題にコミット解決を仕事を通して目指す社会起業の視点も必要ではないか。そのためには、コミュニティビジネスの土壌を支援する体制など、行政からの仕組みの提示も必要。

- (2) シナリオによっては記載内容全般が一般的で、他の地域や全国的に共通する内容となっているものがある(シナリオ1、3、4)
- (3) シナリオ1「地域と趣味と仕事と重なる暮らし:新しいライフスタイル阪神間モダニズムの再発見」としてはどうか。
- (4) シナリオ2について、コ・クリエーションの姿として、スキルアップした人材がどう地域社会や自己実現をしていけるかの姿を掲示してもよい。また、コ・クリエーションのひとつの要素として、領域を超えた職域の交流の機会やまた、地域課題にコミットしていく場づくりなどそういった機会を意図的に実施していく必要もある。なんのために学ぶのか、その先に、阪神間ならではの実現場所があるといい。
- (5) シナリオ2の「人を育てる」よりかは「人が育つ」という表現の方が良いのではないか。「育てる／育てられる」の一方向な関係ではなく、明示的な「教育」に限らずノンフォーマル／インフォーマルな学習も射程に入ることを踏まえれば、「育つ」の方が妥当と考える。

- (6) シナリオ3について、世代を問わずとかいてあるが、シニアと女性に特化したシナリオになっており、タイトルとの違和感がある。性別や世代に関係なく担い手として地域をコ・クリエーションできる人としてかがやける阪神地域、また体制づくりと、輝いてる姿がもっと具体的にイメージできるとよい。
- (7) シナリオ3において記載している高齢者(シニア)の健康に関する記載箇所について、高齢者や健康寿命に焦点を当てているシナリオ3と4をまとめては。
- (8) シナリオ3の「世代を問わず地域をつくる阪神」が日本語として少しわかりづらい。内容としては、「世代や性別を問わずともに地域をつくる阪神地域」といったことか。「阪神」という言葉は独立してつかうと大阪と神戸(あるいは大阪と神戸を含むエリア)を指す言葉なので、違和感がある。
- (9) シナリオ3について「シニア」、「女性」に加えて「障がい者」を加筆してはどうか。
- (10) 取組内容は、「シニア」、「女性」についてのものばかりですが、シナリオ名が「世代を問わず地域をつくる阪神」で良いのか。ご承知のとおり、現状、地域活動の主な担い手は、シニアであり女性。タイトルの内容を実現させるためには、若年層や男性の参加についての取組みが下に続かなくてはならない。
- (11) シナリオ4「いきいき健康100年人生」の「現状や課題」「将来への取組」に記述されている高齢者の特殊詐欺は、「めざしたい姿」に繋がらないので削除したほうが良い。
阪神間における特殊詐欺は大きな課題であり、取り込むのであれば、「12 みんなでつくる安全なまち・暮らし」に自然災害以外の要素も加えて記述してはどうか。
- (12) シナリオ4について、予防の先の、認知症になっても豊かに(安心と安全のなか)生きていける地域や暮らしのあり方が100年社会には必要ではないか。
- (13) シナリオ4について、介護するされるの関係を超えた人としての交流の姿やケアする人は赤ちゃんや子どもでもその役割を担える視点をもらった。目指したい姿の中にそういった認知症に理解があり、共にいきる姿やささえあう繋がりあう地域がみえてくるとシナリオとしてコ・クリエーションになってくるのではないか。
- (14) シナリオ4の「いきいき健康100年人生」はキャッチーであるが、それ故に慢性疾患や機能障害を抱えている人々、心身に病気を抱えながら生きている人、短命で鬼籍に入った人々が「望ましくない生」のように扱われかねない危険がある。優生思想にもつながりかねず、表現には慎重さが必要ではないか。

- (15) シナリオ9に記載の Maas や自動運転の普及は循環エネルギーではなく、シナリオ4(福祉)やシナリオ 10(移動権確保)、シナリオ 15(観光)のいずれかに入れてはどうか。
- (16) 日本は国際的にジェンダー問題の解消で著しい遅れがありシナリオの復活が必要と考える。阪神地域はジェンダー問題に取り組んできた市民・行政の蓄積があることも踏まえれば阪神地域がリードしていく気概を示す積極的意味合いも込めたい。

柱立て2 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち(シナリオ⑤～⑧)

- (1) 済 柱立て2のシナリオの記載順序については、柱立ての単語の記載順に合わせて並び替えた方がよいと考える。(自然 ⇒ 歴史 ⇒ 文化 ⇒ 人を育てる)
- (2) 柱立て2は、「自然、歴史、文化」を掲げているが、そのうち歴史は「阪神間モダニズム」だけとなっている。阪神地域には明治以前から豊かな歴史があることはまったく触れられていない。本地域の特色である清酒や再建された尼崎城は江戸時代、門戸厄神は平安時代、中山寺は奈良時代から存在する。すでに大学と酒造業者が日本酒販売事業を行ったりしている。また、西宮を含む灘五郷は日本一の清酒の生産地であり、海外からも見学に来る場所になっている点を含めてはどうか。

再建された尼崎城や、歴史ある酒造産業や食品産業があり、西宮えびすの副男も毎年ニュースで取り上げられるようになっているので、古くからある地域の魅力も組み入れてはどうか。
- (3) 自然、里山を保全する視点に着目したシナリオ5があるが、保全にとどまらず、里山地域で暮らす住民やその地域の活性化についての取り組みについての記載がさらに必要ではないか。そうすると柱立ての所属も変える必要があるかもしれない。
- (4) 「安らぎ」と「憩い」は共通する点があるので、5と6を1つのシナリオにしてはどうか。
- (5) シナリオ5、6について里山、里浜は、新しいコミュニティを育む場となる。多世代が集い交流するプロジェクトを実施し、そこから自律的な活動や組織へと発展させていくことができる。自然科学や環境保全だけでなく、アートやスポーツとつなぐのも有効。
- (6) シナリオ6については、柱立て4とどちらに記載する方が妥当か要検討。
- (7) シナリオ6について、シナリオ15に統合してはどうか。
- (8) シナリオ7は柱立て2より1の方が妥当。
- (9) シナリオ7はシナリオ6やシナリオ15と重複しているので、分離してはどうか。
- (10) シナリオ7で、一番気にかかるのは、「阪神間モダニズム」への注目により、認識すべき歴史が近代に限られている点。
- (11) 各柱立てのどこかには、「阪神間モダニズム」というキーワードがあって良い。ただ、シナリオ7の「再発見で魅了する」というよりは「阪神間モダニズム＝常に新しいライフスタイルの実現」の方が、意図されたことにあるのでは。

つまり、〇の2つめ「新しい考え方や文化を柔軟に取り入れる寛容な風土」が他との整合性を取るうえで、最も重要。

「柔軟に取り入れる寛容な風土」、その象徴的な事例としては、大阪・東京から引っ越してきたを受け入れたこと、和洋折衷の住宅様式や小原流に代表される洋間にも合う生け花がある。明治以降長らくは、「煙都(働く場所)から健康住宅都市(住むところ)へ」ということだが、「常に新しいライフスタイル」ということなら、昨今の職住混合も取り込めるように思う。

(12) シナリオ7について、阪神間モダニズムを地域資源として再認識していくためには、見えてきた兆しのように、歴史を知ること、関わる機会を増やすこと、また、活用の機会を生むことかと思う。美術館や博物館などとも連携しながら、教育普及、まちの活性化などの視点も取り入れながら、市民が場を共有し、時間をつくるコ・クリエーションの場が生まれていけば親しみを持ち文化への愛着形成にも繋がる。

(13) シナリオ8について、ここで語られている学びは、物事への意欲や態度のような生き様の部分。もちろん未来の担い手を育む意味合いもあるが、今の交流を最大限に生み出し、活かしあえる幸福感が学びあいにあるので幸福感を高める視点を追加できないか。

例えば、乳幼児期からシニアまでライフスタイルに応じたゆたかな地域資源の中で学びの機会があること。世代間交流がうまれる仕組みが、社会の中で役割をもち輝く、共に、自分たちの暮らす地域をつくっていく原動力になるなど。自然の中での体験の原体験から環境意識を育む姿も目指したい姿に入れて欲しい。

(14) シナリオ8には伝統や文化継承(継承文化?)の指摘があるが、ソフト面の指摘が多く、「大人から聞く」だけではあまりに単純。地域の大人からでは聞けないような歴史も、まちづくりを考える上では、重要。恐らく、学びなおしの部分で、大人がそういった歴史を学び、子供に伝える、のだと思うが、大人の色眼鏡にかかった話になってしまう。

昨今のアクティブラーニングでも、最初のとっかかりは身近なこと(大人の話聞く・見学に行く)だが、最終的には、自分で調べ、考え、体系的な知や次のアクションにつながるように指導している。もちろん、地域愛を育むために「地域の大人から聞く」ことも重要。しかし、他の地域や専門家が、阪神地域をどのように評価しているのか、実際にどのような歴史があったのかを客観的に知って初めて、バランスの取れた歴史を生かしたクリエイティブな取り組みがうまれるのではないか。

(15) シナリオ8について学習講座やワークショップを通して体験し、表現し、学習していくことが重要。特に、「ワークショップ」「体験」「表現」のキーワードを加筆してはどうか。

(16) シナリオ9に記載の Maas や自動運転の普及は循環エネルギーではなく、シナリオ4(福祉)やシナリオ10(移動権確保)、シナリオ15(観光)のいずれかに入れてはどうか。

(17) シナリオ9「地域で循環するエネルギー」は柱立て3より、2のほうが良いのでないか。柱立て3に位置付けるのであれば、もう少し住民や団体の繋がりが感じられる要素を「めざしたい姿」や「将来への取組」に落とし込む必要があるのではないか。

柱立て3 みんながつながるやさしいまち(シナリオ⑨～⑬)

- (1) シナリオ9「地域で循環するエネルギー」は柱立て3より、2のほうが良いのでないか。柱立て3に位置付けるのであれば、もう少し住民や団体の繋がりが感じられる要素を「めざしたい姿」や「将来への取組」に落とし込む必要があるのではないか。
- (2) シナリオ10にある「ニュータウンの再生」は重要な課題だが、阪神北の特色である、里山のそばにある「農村地域の活性化」についても、ニュータウンと同様に重要な課題であると認識している。
- (3) シナリオ10についてニュータウンの高齢化問題への対応として、子育てを通じたコミュニティ活性化を目指すなら、産官学連携の推進や子育て関連のボランティア組織の育成が重要ではないか。それらが、重層的なコミュニティに発展していくと理想的である。
- (4) シナリオ9に記載の Maas や自動運転の普及は循環エネルギーではなく、シナリオ4(福祉)やシナリオ10(移動権確保)、シナリオ15(観光)のいずれかに入れてはどうか。
- (5) シナリオ10の「子どもの元気と世代を超えてつながる」は日本語として熟れていないので次回会議検討内容に即して再考が必要。
- (6) 「子どもの元気」がシナリオタイトルの先頭に出てきていますが、内容に子どもの「元気」に関するものがあまり無いように思います。
- (7) オールドニュータウン化したから、若者に魅力的なまちにして若者を集めるという発想だけでは、同じことの繰り返しになるのではないかとと思われるので、シナリオにあるように、多世代が共存している姿をめざすような表現にしてはどうでしょうか。(例 世代を超えたつながりができていない等)
- (8) シナリオ11「おせっかいがおせっかいでない家族のようにつながる地域」というタイトルについて、「おせっかいがおせっかいでない」というフレーズの説明が無く、また、他のシナリオのタイトルからみても違和感がある。
- (9) シナリオ11の「家族のように」とあるが、必ずしも良好な家族関係で育った人ばかりではなく、不用意な比喻ではないか。「自然なおせっかい」は家族関係の中だけで行われるわけでもなく、家族関係の中ですら自動的に行われるわけでもない。
また、今後の地域自治や公共経営を考えた際に多様な社会的連帯経済を地域の中でいかに発展させるのかは重要な観点となると考えられ、いわゆる「おせっかい」とされる水準で地域社会像を表現することには不十分ではないかと思われる。

社会的排除層やそのリスク層にある人々や、社会的に障害者とさせられている人々などをいかに包摂していくのかという課題もこのシナリオで扱う場合、内容が大きく膨らむので内容によって2-3のシナリオに分割させることも今後の検討過程で見直した方が良いのではないかと。

- (10)「家族」のようなつながりは「濃い」つながりであると思う。参画協働担当であった経験から、かつてのような常につながっているような「濃い」ものではなく、必要な時に必要な濃度で繋がれるという「ライトで」新しいものが求められているように感じている。
- (11)また、「家族」を無批判に善としている点も気になる。さまざまな事情により家族のいない人が「欠けた状態」であるかのように捉えられかねないので、多様性に配慮したビジョンが求められるなか慎重な記載が必要かと思う。
- (12)将来への取組みは、「助けがほしい人と助けたい人をつなげる仕組みをつくる」となっている。「助けが欲しい人」は増えていくと思うが、「助けたい人」を増やす取組みがあっても良いのではないかと。
- (13)(めざしたい姿)の3つ目、地域の「養育力」の言葉がわかりにくいのではないかとと思う。地域とは何かを明らかにしたうえで、「養育力」とは何かわかるように記載すべきかと思う。
- (14)シナリオ12は内容からすれば前回会議案の通り「防災／減災」と明記した方が良い。特に南海トラフ巨大地震に向けての諸取組は、今回策定するビジョンにおいて特に意識することが求められる。「安全なまち・くらし」とすれば、防犯やインフラ整備、老朽化インフラのメンテナンスなど別の文脈が入り込む。シナリオタイトルを変更するのであれば、今後一層深刻化するインフラの老朽化問題を明記してその対策に向けた取組を書き込む必要があるのではないかと。
- (15)シナリオによっては記載内容全般が一般的で、他の地域や全国的に共通する内容となっている(シナリオ11、13)

柱立て4 にぎわいのあるまち(シナリオ⑭～⑱)

- (1) 再建された尼崎城や、歴史ある酒造産業や食品産業があり、西宮えびすの副男も毎年ニュースで取り上げられるようになっているので、古くからある地域の魅力も組み入れてはどうか。
- (2) シナリオ 14 について、「アート」をどのように定義するかにもよるが文化の文脈が見えにくいので文化芸術と日本語で表記してはどうか。
- (3) 見えてきた兆しに、「VR 等で阪神間のアートが話題を呼ぶ」とありますが、直近の具体例があれば、ご教示を。新ビジョンに掲載するには少し古い話なのかなという気がする。
- (4) シナリオ9に記載の Maas や自動運転の普及は循環エネルギーではなく、シナリオ4(福祉)やシナリオ 10(移動権確保)、シナリオ 15(観光)のいずれかに入れてはどうか。
- (5) シナリオ 18「みんなで楽しむスポーツ」が、柱立て4でよいのか、悩ましい。14のように、アートを手段として交流につなげるのであれば、柱立て4にあることが理解しやすいが、18はスポーツを楽しむことが目標となっているため、柱立て1と取ることもできる。
- (6) シナリオ8については、柱立て4とどちらに記載する方が妥当か要検討。